



桐生市有鄰館（旧矢野蔵群）

有鄰館（矢野蔵群）は近江商人初代矢野久左衛門が寛延2年（1749）にこの地に店舗を構えて以来、酒類や醤油の醸造を生業とし、桐生の商業に大きく寄与してきた店舗・土蔵などの建物群である。蔵は矢野本店の店蔵を含め大小11が現存、明治期の塩蔵、酒蔵、味噌蔵、大正期の醤油蔵、煉瓦蔵、さらには昭和の時代に建てられたビール蔵など、まさに蔵の博物館、桐生新町の往時の姿を今日に伝えている。本町通りに面した煉瓦蔵は、桐生の煉瓦建造物としては最も規模が大きく、桐生を代表する近代化産業遺産である。（写真下）

平成5年に桐生市に寄贈され、イベントスペースとして活用が始まり、同年、当時桐生に工房を構えていた彫刻家・掛井五郎氏の作品展が実質的なオープニングとなり大きな反響を呼んだ。以来、常に桐生のまちづくりの拠点となり、有鄰館芸術祭や演劇祭、有鄰館まつりや桐生ファッションウィークのメイン会場として桐生文化を発信してきた。

平成7年度からは国土庁の地域個性形成事業の補助対象になり、一部の危険箇所の修理や最低限の管理設備の設置が行われた。芸術・美術活動から始まった独創的な空間利用は、歴史的な建造物と現代的な利用の接点を見つけるモデルケースとして、全国から高い評価を受けている。

昨年の東日本大震災で各蔵は大きな損傷を受け、一時は全館立入禁止となったが、修復工事を受け、平成24年4月に全館が復旧した。5月の有鄰館まつりでは、新しい有鄰館を舞台にして多くのイベントが開催される。

（写真上：左から穀蔵、洋酒蔵、酒蔵、中央通路をはさみ味噌蔵、醤油蔵）



歴史的建造物活用の先駆け
全面復旧し桐生文化を発信

- 住所／桐生市本町二丁目6-32
- 電話／0277-46-4144
- 桐生市指定重要文化財